

Sun Server X4-8 プロダクトノート

ORACLE®

Part No: E56092-01
2014 年 6 月

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの用法	5
Sun Server X4-8 プロダクトノート	9
サポートされるオペレーティングシステム	10
サポートされるハードウェア	10
PCIe カード構成	11
サポートされるファームウェア	12
サーバーの更新情報	13
関連情報	13
サーバー管理ツール	14
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)	14
関連情報	14
ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題	17
HBA の機能低下幅に関する障害メッセージは無視する (18783638)	17
自動 CMOD FPGA 更新時にサーバーの電源を再投入しない (18707243)	17
BIOS 構成の変更後サーバーが 2 回ブートする (18339188)	18
SMOD のロケータボタンが動かなくなることがある	19
Oracle ILOM の問題	21
Oracle ILOM が CPU を間違って認識する	21
回避方法	21
Oracle Solaris の問題	23
Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用して Solaris クライアントから Solaris 11 をインストールすると失敗する (18285100)	23
Oracle VM の問題	25
Oracle VM が複数のオプションカードに対して十分な割り込みを割り当てない (16596993)	25
大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM 3.2.7 サーバーをインストールした あとのエラー (16557272)	26

Oracle VM 3.2.7 は最大で 4T バイトの RAM と 160 基の CPU をサポートする (17859222)	26
Linux の問題	29
Sun Flash Accelerator F80 PCIe カードのホットプラグが失敗する (17898908)	29
8 ソケットシステム上の RHEL 5.10 では、maxcpus を 160 に設定する (16734123)	30
Oracle RHEL 互換カーネル 5.10 の 1T バイトメモリー制限 (16732124)	30
2 つ以上のオプションカードが存在する場合、Oracle RHEL 互換 5.10 XEN で pci=noms1 が必要になる (16734126)	30
PCIe カードをホットプラグするとエラー AER が発生する (16949957、16956385)	31
VMware ESXi の問題	33
VMware ESXi 5.5 が 4G バイトを超える MMIO リージョンをサポートしない (16480679、17013064)	33
VMware ESXi 5.5 で PCIe カードの割り込みが不足する (16494653)	34
ESXi 5.5 は最大 4T バイトの RAM をサポートします	34
サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手	35
ファームウェアとソフトウェアの更新	35
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	36
ソフトウェアリリース	37
MOS または PMR からのファームウェアおよびソフトウェアの取得	38
▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード	38
物理メディアをリクエストする	39
物理メディアのリクエストのための情報の収集	40
その他の方法による更新のインストール	42

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、Oracle の Sun Server X4-8 用の最新のファームウェア、ソフトウェア、およびドキュメントの入手方法を説明します。フィードバック用のリンクおよびドキュメントの変更履歴も記載されています。

- [5 ページの「Sun Server X4-8 モデル命名規則」](#)
- [5 ページの「最新のファームウェアとソフトウェアの入手」](#)
- [6 ページの「Oracle サポートへのアクセス」](#)
- [6 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [6 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [7 ページの「サポートとトレーニング」](#)
- [7 ページの「寄稿者」](#)
- [7 ページの「変更履歴」](#)

Sun Server X4-8 モデル命名規則

Sun Server X4-8 という名前の意味は次のとおりです。

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 4 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 8 は、プロセッサの数を意味します。

最新のファームウェアとソフトウェアの入手

Oracle x86 サーバー、サーバー (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – これは、工場出荷時にインストールされる Sun Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。これには必要なすべてのツールとドライバ

が含まれており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブ上にあります。

- My Oracle Support – <https://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。サポート Web サイト上の「問合せ」リンクを使用してください。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または聴覚に障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X4-8	http://www.oracle.com/goto/X4-8/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle ILOM のバージョンのドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle HMP のバージョンのドキュメントを参照してください。	www.oracle.com/goto/ohmp/docs

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセット内の情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: <https://support.oracle.com>
- トレーニング: <http://education.oracle.com>

寄稿者

主な執筆者: Ray Angelo、Michael Bechler、Cynthia Chin-Lee、Lisa Kuder、Mark McGothigan、Ralph Woodley。

寄稿者: William Schweickert、Anthony Villamor、Mick Tabor、Richard Masoner、Tamra Smith-Wasel、Denise Silverman。

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2014 年 4 月。初版。
- 2014 年 6 月。製品リリースのための変更。
- 2014 年 6 月。修正された問題を削除しました。

Sun Server X4-8 プロダクトノート

これらのプロダクトノートでは、サポートされているファームウェアとオペレーティングシステム、操作に関する重要な注意事項、および既知の問題に関する最新情報について説明します

『Sun Server X4-8 プロダクトノート』には、次の情報が含まれます。

確認	リンク
サポートされるオペレーティングシステム	10 ページの「サポートされるオペレーティングシステム」
サポートされるハードウェア	10 ページの「サポートされるハードウェア」
PCIe カードの構成規則	11 ページの「PCIe カード構成」
サポートされるファームウェア	12 ページの「サポートされるファームウェア」
サーバーの更新情報	13 ページの「サーバーの更新情報」
サーバー管理ツール	14 ページの「サーバー管理ツール」
Oracle Integrated Lights Out Manager	14 ページの「Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)」
既知の問題	■ 「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題」 ■ 「Oracle ILOM の問題」 ■ 「Oracle Solaris の問題」 ■ 「Oracle VM の問題」 ■ 「Linux の問題」 ■ 「VMware ESXi の問題」
サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手	「サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手」

注記 - このドキュメントには、ドキュメントの発行時点でのサーバーの正確な情報が記載されています。

サポートされるオペレーティングシステム

Sun Server X4-8 でサポートされている最新のオペレーティングシステムは、<https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-8#tab:Operating-Systems> で確認できます。

次の表に、Sun Server X4-8 でサポートされているオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアの一覧を示します。

プラットフォームソフトウェアリリース	サポートされるオペレーティングシステム
1.0	■ Oracle Linux 5.10 および 6.5 ■ Oracle Solaris 11.1 ■ Oracle VM 3.2 7 ■ RHEL 5.10, 6.5 ■ SLES 11 SP3 ■ VMware ESXi 5.5 ■ Windows Server 2008 SP2, Windows Server 2012, Windows Server 2012 SP2

サポートされるハードウェア

次の表は、サポートされるハードウェアを示しています。

部品	説明
CMOD	4 または 8 CPU モジュールには、それぞれ 1 基の Intel® Xeon E7-8895 V2* が搭載されています
ストレージ	8 SSD/HDD スロットには、次が含まれています。 ■ 400G バイト eMLC, SATA3 SSD ■ 600G バイト 2.5 インチ 10000 rpm SAS-2 HDD ■ 1.2T バイト 2.5 インチ 10000 rpm SAS-2 HDD
メモリー	各 CMOD で、最小 4 枚および最大で 24 枚の DIMM がサポートされます。サーバー内の DIMM はすべて同じものを使用する必要があります。サポートされる DIMM タイプは次のとおりです。 ■ 16G バイト 1.35V, 1600MHz デュアルランク RDIMM ■ 32G バイト 1.35V, 1600MHz クアッドランク LRDIMM

部品	説明
PCIe カード	8 つの PCIe カードキャリア (DPCC) に 16 個の PCIe スロットがマウントされています。各 DPCC に PCIe スロットが 2 つあります。 ■ 4 CMOD システムでは、PCIe スロット 1 - 8 がサポートされます。 ■ 8 CMOD システムでは、16 個すべての PCIe スロットがサポートされます。 PCIe の詳細は、11 ページの「PCIe カード構成」を参照してください。

PCIe カード構成

Sun Server X4-8 での使用がサポートされている PCI Express (PCIe) カードは次のとおりです。下の表に示す取り付けルール (カードとスロット) は、出荷時にテスト済みの構成に基づいた推奨です。

次の制限に注意してください。

- スロット 13、14、15、および 16 には、HBA やネットワークブートデバイスなどのブート可能デバイスを収容できません。
- システム内で Emulex バージョンと Qlogic バージョンの Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA を混在させることはできません。1 つのシステムで利用できるのは 1 つのベンダーのカードだけです。
- 同じ Sun Storage 16Gb Fibre Channel Universal HBA 上に FC SFP+ と FCoE SFP+ を混在させることはできません。
- ただし、システム内で単一ベンダーの Sun Storage 16Gb Fibre Channel Universal HBA (Qlogic または Emulex のいずれか) を混在させて、1 つに FC SFP+ を取り付け、もう 1 つに FCoE SFP+ を取り付けることができます。
 - Qlogic アダプタの場合: 7101676、7101680、7101678 FCoE
-または-
 - Emulex アダプタの場合: 7101686、7101688 FCoE
- システム内で Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA と Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA を混在させることはできません。
- システム内でデュアルポート 10 ギガビット Ethernet PCIe 2.0 銅/ファイバ SFP+ アダプタと Sun デュアルポート 10GBase-T PCIe 2.0 ロープロファイルアダプタ LP を混在させることはできません。

PCIe カードの取り付け順序	PCIe カード	4 CPU システムでの最大	スロット装着順序	8 CPU システムでの最大	スロット装着順序
1	Sun Flash Accelerator F80 PCIe カード (7069200)	4	スロット 7、5、3、1	8	スロット 11、9、7、5、3、1、15、13
2	Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA, Qlogic (7023303)	4	スロット 8、6、4、2、7、5、3、1	4	スロット 12、10、8、6、4、2、11、9、7、5、3、1、16、14、15、13
3	Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA, Emulex (7023036)	4	スロット 8、6、4、2、7、5、3、1	4	スロット 12、10、8、6、4、2、11、9、7、5、3、1、16、14、15、13
4	Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA, Qlogic (SG-XPCIE2FC-QF8-N)	2	スロット 8、6、4、2、7、5、3、1	2	スロット 12、10、8、6、4、2、11、9、7、5、3、1、16、14、15、13
5	Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA, Emulex (SG-XPCIE2FC-EM8-N)	2	スロット 8、6、4、2、7、5、3、1	2	スロット 12、10、8、6、4、2、11、9、7、5、3、1、16、14、15、13
6	Sun Dual Port QDR InfiniBand ホストチャネルアダプタ, InfiniBand CX3 (7104074)	2	スロット 8、6、4、2、7、5、3、1	2	スロット 12、10、8、6、4、2、11、9、7、5、3、1、16、14、15、13
7	デュアルポート 10 ギガビット Ethernet PCIe 2.0 銅/ファイバ SFP+ (1109A-Z)	4	スロット 8、6、4、2、7、5、3、1	4	スロット 12、10、8、6、4、2、11、9、7、5、3、1、16、14、15、13
8	Sun Dual Port 10GBase-T PCIe 2.0 Low Profile アダプタ LP (7100488)	4	スロット 8、6、4、2、7、5、3、1	4	スロット 12、10、8、6、4、2、11、9、7、5、3、1、16、14、15、13

サポートされるファームウェア

サーバーファームウェアのバージョンは、既知の問題を修正するために必要に応じて更新されるため、サポートされるファームウェアのバージョンは時間とともに変わります。

サポートされるファームウェアバージョンに関する最新情報については、Oracle System Assistant の ReadMe ファイルを参照してください。ReadMe ファイルにアクセスするには、「Oracle System Assistant System Overview」ページで「Help」ボタンをクリックしてから、「Release Notes」をクリックします。ReadMe ファイルに最新のファームウェアバージョンの情報が確実に含まれるようにするには、サーバーに使用可能な最新のソフトウェアリリースで Oracle System Assistant を更新します。

ReadMe ファイルは、My Oracle Support で最上位の ReadMe としてもアクセスできます (My Oracle Support からダウンロードする任意のサーバーソフトウェアパッケージに含まれています)。ダウンロード手順については、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手](#)」を参照してください。

次の表に、リリースされたサーバーファームウェアのバージョン一覧を示します。

注記 - 最新のシステムソフトウェアリリースにアップグレードすることをお勧めします。これにより、システムでサポートされる最新のファームウェア、BIOS、およびドライバを入手できます。システムの最新ソフトウェアリリースをダウンロードするには、<http://support.oracle.com> にアクセスしてください。

システムソフトウェアリリース	Oracle ILOM SP ファームウェア	システム BIOS	CPLD
1.0	3.2.2.12-r89085	29.01.13.00	3.2

サーバーの更新情報

サポート維持、機能拡張、問題修正のためのサーバーの更新が公開されています。これらの更新には、新バージョンのファームウェア (BIOS および SP/Oracle ILOM)、新しくリリースされたツールやドライバ、その他のパッケージコンポーネントに対する更新が含まれます。更新がリリースされると、更新の ReadMe ファイルに変更内容の詳細が記述されます。ReadMe ファイルは、次のソースで入手できます。

- Oracle System Assistant (「System Information」ページの「Help」ボタンをクリック)。
- My Oracle Support (MOS) の最上位の Readme (<http://support.oracle.com>)。
- MOS からダウンロードしたサーバーパッケージに同梱。

関連情報

- [「サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手」](#)
- [14 ページの「Oracle Integrated Lights Out Manager \(ILOM\)」](#)

サーバー管理ツール

サーバー向けに単一システム管理ツールが 3 セット存在します。

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) – 詳細は、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> で Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリを参照してください。
- Oracle System Assistant – 詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) の、Oracle System Assistant を使用したサーバー設定に関する手順を参照してください。
- Oracle Hardware Management Pack – 詳細は、<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

さらに、データセンターで複数のシステムを管理するために、次のソフトウェアを使用できます。

- Oracle Enterprise Manager Ops Center – 詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html> で製品情報のページを参照してください。

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)

各サーバーモジュールの計算ノードにはサービスプロセッサ (SP) が含まれています。SP には Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) がインストールされており、これによって、IPMI 2.0 準拠のリモートサーバー管理機能が提供されます。

次のインタフェースによって、Oracle ILOM に対するネットワークアクセスが提供されます。

- サーバーモジュールノードのサービスプロセッサ (SP) またはシャーシモニタリングモジュール (CMM) を介した Integrated Lights Out Manager (ILOM)
- シリアル接続を使用したローカルの ILOM コマンド行のアクセス
- ミッドプレーンへの 10/100 管理 Ethernet ポート
- IP 経由のリモートのキーボード、ビデオ、およびストレージ (KVMS)

関連情報

- [14 ページの「サーバー管理ツール」](#)

- ILOM ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>

ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題

次の表に、Sun Server X4-8 のハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題の一覧を示します。

問題点へのリンク	回避方法
17 ページの「HBA の機能低下幅に関する障害メッセージは無視する (18783638)」	該当なし
17 ページの「自動 CMOD FPGA 更新時にサーバーの電源を再投入しない (18707243)」	該当なし
18 ページの「BIOS 構成の変更後サーバーが 2 回ブートする (18339188)」	はい
19 ページの「SMOD のロケータボタンが動かなくなることがある」	はい

HBA の機能低下幅に関する障害メッセージは無視する (18783638)

HBA の機能低下幅に関する障害メッセージ警告が表示されることがあります。例:

```
Fault fault.io.intel.iio.pcie-link-degraded-width on FRU /SYS/SMOD/HBA at component /SYS/SMOD/HBA
```

このメッセージは無視してかまいません。この問題はパフォーマンスに影響しません。

自動 CMOD FPGA 更新時にサーバーの電源を再投入しない (18707243)

CMOD または SMOD ハードウェアを交換すると、CMOD と SMOD 間で FPGA の同期外れが発生する可能性があります。サーバーに AC 電源を投入したときに、Oracle ILOM が FPGA の不一致を検出して FPGA を自動的に更新します。

- これらの更新が行われている間は、サーバーの電源を切断したり、電源を入れ直したりしないでください。

自動 FPGA 更新の進行中、Oracle ILOM イベントログに次のようなメッセージが表示されます。

```
Thu May 8 01:01:20 2014 Firmware Update minor FPGA update x4_8cmod0 started
```

または

```
Thu May 8 01:01:19 2014 Firmware Update minor Performing
```

```
FPGA sync on x4_8cmod0 x4_8cmod2 x4_8cmod3 x4_8cmod4 x4_8cmod5 x4_8cmod6  
x4_8cmod7 x4_8smod
```

- 更新が完了すると、または更新の必要がなかった場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Thu May 8 01:10:32 2014 Firmware Update minor FPGA update complete
```

または

```
Thu May 8 00:46:36 2014 Firmware Update minor FPGA update is not needed
```

BIOS 構成の変更後サーバーが 2 回ブートする (18339188)

UEFICfg LateSync 機能が有効のときに BIOS/ブート構成が変更されると、BIOS POST の最後にサーバーがリブートします。最初のブートは変更を Oracle ILOM に同期させます。

BIOS ブート構成は顧客の選択に応じて変更されるほか、特定のシステム変更によって自動的に変更されます。

- 顧客の選択にはブート順序、ブートリスト、またはブートモードの変更が含まれます。
- 自動変更は PCIe カードやメモリーライザーの削除または追加などのイベントによって誘発されます。

通常、これらは問題ではありません。2 回目のブートが終了し、サーバーが正常に動作するまで待ちます。

UEFICfg LateSync が無効の場合、次のブート時まで Oracle ILOM と BIOS 構成の変更が同期されない可能性があります。

詳細は、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』または『[Sun Server X4-8 サービスマニユアル](#)』を参照してください。

SMOD のロケータボタンが動かなくなることがある

一部のシステムで SMOD (システムの背面) のロケータボタンを押したときに、ボタンが引っ掛かり指を離しても押されたままの状態になることがあります。

Oracle ILOM の問題

このセクションでは、Sun Server X4-8 の操作に関する重要な注意点および要件について説明します。次の表に、Sun Server X4-8 のハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題の一覧を示します。

問題点へのリンク	回避方法
21 ページの「Oracle ILOM が CPU を間違って認識する」	はい

Oracle ILOM が CPU を間違って認識する

Oracle ILOM の FRU 出力コマンドでプロセッサモデルに関する情報が出力されません。たとえば `ipmitool fru` コマンドでは、次が表示されます。

```
FRU Device Description : CMOD0/P0 (LUN 0 ID 16)
Product Manufacturer   : Intel
Product Name           : unknown product name unknown
Product Part Number    : CM80636
Product Version        : 000306E7 SR1NR
```

回避方法

`show /System/Processors/CPUs/CPU_N` コマンドを使用します。*N* は CPU 番号です。例:

```
-> show /System/Processors/CPUs/CPU_0

/System/Processors/CPUs/CPU_0
Targets:

Properties:
  health = OK
  health_details = -
  part_number = CM80636
  serial_number = Not Available
  location = P0 (CPU 0)
  model = Intel(R) Xeon(R) CPU E7-8895 v2 @ 2.80GHz
  max_clock_speed = 2.800 GHz
  total_cores = 15
  enabled_cores = 15
  temperature = Not Supported
```

```
Commands :  
  cd  
  show
```

->

または、Oracle ILOM Web インタフェースの「Summary」ページまたは「System Information」ページで、「Processor」>「Details」を選択します。

Oracle Solaris の問題

このセクションの各トピックでは、Sun Server X4-8 における Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
23 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用して Solaris クライアントから Solaris 11 をインストールすると失敗する (18285100)」	はい

Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用して Solaris クライアントから Solaris 11 をインストールすると失敗する (18285100)

Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用して ISO イメージから Solaris 11.1 をインストールしようとする、インストールに失敗します。

回避方法

次のいずれかを実行します。

- Windows または Linux クライアントから Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用します。
または
- Oracle ILOM リモートデバイス機能を使用してリモートの NFS または SAMBA サーバー上にある ISO イメージをマウントし、これに接続します。

詳細は、次を参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>。

Oracle VM の問題

このセクションの各トピックでは、Sun Server X4-8 における Oracle Virtual Machine (OVM) の問題について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
25 ページの「Oracle VM が複数のオプションカードに対して十分な割り込みを割り当てない (16596993)」	はい
26 ページの「大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM 3.2.7 サーバーをインストールしたあとのエラー (16557272)」	はい
26 ページの「Oracle VM 3.2.7 は最大で 4T バイトの RAM と 160 基の CPU をサポートする (17859222)」	該当なし

Oracle VM が複数のオプションカードに対して十分な割り込みを割り当てない (16596993)

多数の PCIe カードが装着されている状況で Oracle VM 3.2.7 を実行すると、次のような多様な症状がみられることがあります。

- dhclient を使用するとシステムが混乱状況に陥ることがあります。
- ethtool コマンドで speed unknown および duplex unknown が表示されます。
- オプションカードが予期したとおりに動作しない可能性があります。

回避方法

grub.conf ファイルを編集し、次のカーネルブートパラメータを追加します。

```
extra_guest_irqs=64,2048 nr_irqs=2048
```

大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM 3.2.7 サーバーをインストールしたあとのエラー (16557272)

場合によっては、大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM を正しくインストールして起動するためには、特殊な構成が必要になります。そうでないと、インストール後の起動時に次のエラーが表示されることがあります。

```
kernel panic -not syncing: Out of memory and no killable processes
```

Oracle VM 3.2.7 を ISO イメージから、または Oracle System Assistant を使用してインストールする場合は、`dom0_mem` パラメータを正しく設定する必要があります。Oracle VM ソフトウェアを PXE ブートまたはその他のカスタマイズされた環境からインストールし、大容量メモリーシステムがある場合は、`dom0_mem` 設定の再計算が必要になることがあります。

回避方法

次の式を使用して、`dom0_mem` 設定を再計算します。

$$\text{dom0_mem} = 502 + \text{int}(\text{physical_mem} * 0.0205)$$

たとえば、システムに 128G バイトのメモリーがある場合は、`dom0_mem` を 3188M バイトに増やす必要があります。

```
dom0_mem=3188M
```

`dom0_mem` 設定は、`grub.conf` ファイル内で、またはインストール中に `grub` メニューでブートプロセスを中断し、そこで編集することで更新できます。

`dom0_mem` 設定の詳細については、Oracle VM Server のインストールに関するドキュメントを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/E35330/html/vmiug-server-dom0-memory.html

Oracle VM 3.2.7 は最大で 4T バイトの RAM と 160 基の CPU をサポートする (17859222)

Oracle VM 3.2.7 は最大で 4T バイトの RAM と 160 基の CPU をサポートします。

CMOD が 8 個あるシステムにはメモリーを 6T バイトまで搭載できます。

回避方法

4T バイトを超えるメモリーが搭載されたシステムで Oracle VM 3.2.7 を実行するには、次の行を `grub.conf` ファイルに追加します。

xen.gz mem=4096G

例:

```
kernel /xen.gz dom0_mem=3152M allowsuperpage dom0_vcpus_pin dom0_max_vcpus=20
crashkernel=256M@128M mem=4096G module /vmlinuz-2.6.39-300.32.6.el5uek
ro root=UUID=4adbac6a-fa58-4892-9052-2cca403f7dd0 module /initrd-2.6.39-300.32.6.el5uek.img
```

注記 - 各 CMOD には CPU を 15 基含むプロセッサが 1 つあり、CPU は合計で 120 基となります。ハイパースレッディングが有効の場合、この数は実質 2 倍となり 240 基の CPU ということになります。超過分の CPU は Oracle VM で無視されるため、これは問題ではありません。

Linux の問題

このセクションの各トピックでは、Sun Server X4-8 上で動作する Linux OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
29 ページの「Sun Flash Accelerator F80 PCIe カードのホットプラグが失敗する (17898908)」	はい
30 ページの「8 ソケットシステム上の RHEL 5.10 では、maxcpus を 160 に設定する (16734123)」	はい
30 ページの「Oracle RHEL 互換カーネル 5.10 の 1T バイトメモリー制限 (16732124)」	いいえ
30 ページの「2 つ以上のオプションカードが存在する場合、Oracle RHEL 互換 5.10 XEN で pci=nomsr が必要になる (16734126)」	はい
31 ページの「PCIe カードをホットプラグするとエラー AER が発生する (16949957, 16956385)」	はい

Sun Flash Accelerator F80 PCIe カードのホットプラグが失敗する (17898908)

Sun Flash Accelerator F80 PCIe カードをシステムにホットプラグした場合に、初期化されないことがあります。これが発生すると、エラーログに次のようなメッセージが表示されます。

```
mpt2sas1: _base_wait_for_doorbell_int: failed due to timeout count(5000),
          int_status(40000000)!
mpt2sas1: doorbell handshake int failed (line=3309)
mpt2sas1: _base_get_ioc_facts: handshake failed (r=-14)
mpt2sas1: failure at drivers/scsi/mpt2sas/mpt2sas_scsih.c:11348/_scsih_probe()!
```

回避方法

1. コンソールまたは `/var/log/messages` から PCIe デバイスを記録します。たとえば、(`/var/log/messages` からの場合):

```
pci 0000:e1:00.0: no hotplug settings from platform
```

```
mpt2sas1: _base_wait_for_doorbell_int: failed due to timeout count(5000),
int_status(40000000)!
mpt2sas1: doorbell handshake int failed (line=3309)
mpt2sas1: _base_get_ioc_facts: handshake failed (r=-14)
mpt2sas1: failure at drivers/scsi/mpt2sas/mpt2sas_scsih.c:11348/_scsih_probe()!
```

2. PCI デバイス番号を記録します (例内の 0000:e1:00.0)
3. 次のコマンドを実行します。

```
echo -n xxxx:yy:nn.n > /sys/bus/pci/drivers/mpt2sas/bind
```

ここで、xxxx:yy:nn.n はデバイス番号です。

8 ソケットシステム上の RHEL 5.10 では、maxcpus を 160 に設定する (16734123)

RHEL 5.10 XEN の場合、サーバーにソケットが 8 個あるとサーバーがクラッシュする可能性があります。

回避方法

次のテキストを /boot/grub/menu.1st の xen.gz 行に追加します。

```
maxcpus=160
```

Oracle RHEL 互換カーネル 5.10 の 1T バイトメモリ制限 (16732124)

Oracle RHEL 5.10 互換カーネルがアクセスできるメモリは 1T バイトまでです。

2 つ以上のオプションカードが存在する場合、Oracle RHEL 互換 5.10 XEN で pci=noms i が必要になる (16734126)

Oracle Red Hat 互換 5.10 Xen を実行する場合で、システムに 2 つ以上のオプションカードが存在する場合 (何かが発生します)。

回避方法

/etc/grub.conf ファイルで、モジュール /vmlinuz 行に **pci=noms i** を追加します。

例:

```
module /vmlinuz-2.6-XXX.el5xen ro root=LABEL=/ pci=nosmi
```

PCIe カードをホットプラグするとエラー AER が発生する (16949957、16956385)

Linux システムで PCIe カードをホットプラグすると、オプション ROM 速度の不一致が原因で AER が発生する可能性があります。

回避方法

PCIe カードのホットプラグで AER が発生した場合:

- Oracle Linux 6.5 の場合は、`/etc/grub.conf` ファイルに次の行を追加します。

```
pci=pcie_bus_perf
```

- Red Hat Linux 5.10 または 6.5 (または、これに相当する Oracle Red Hat 互換 Oracle Linux) の場合、BIOS 設定ユーティリティーを使用して、最大ペイロードを 128 に設定します。

1. BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
2. 「I/O」タブを選択します。
3. ドロップダウンリストから「PCI Subsystem Settings」を選択します。
4. 「PCI Subsystem Settings」ページで、「Maximum Payload」を 128 に設定します。

デフォルトは 256 です。

VMware ESXi の問題

このセクションの各トピックでは、Sun Server X4-8 における VMware ESXi ソフトウェアの問題点について説明します。

問題点へのリンク	回避方法
33 ページの「VMware ESXi 5.5 が 4G バイトを超える MMIO リージョンをサポートしない (16480679, 17013064)」	はい
34 ページの「VMware ESXi 5.5 で PCIe カードの割り込みが不足する (16494653)」	いいえ
34 ページの「ESXi 5.5 は最大 4T バイトの RAM をサポートします」	該当なし

VMware ESXi 5.5 が 4G バイトを超える MMIO リージョンをサポートしない (16480679, 17013064)

Sun Server X4-4 はデフォルトで BIOS を 64 ビット MMIO (Memory Mapped I/O) に設定します。これにより、追加の PCIe メモリーのアドレス空間を、オプション ROM を含む PCIe カード用の標準の 32 ビット 4G バイトを超えてマップできます。ただし、VMware ESXi は、標準の 4G バイトを超える MMIO 領域と互換性がありません。この問題により、ESXi で一部の PCIe カードが適切に機能しない可能性があります。

回避方法

可能性のある回避方法として、サーバーの BIOS 設定ユーティリティーを使用して 64 ビット MMIO を無効にします (「IO」>「PCIe Subsystem Settings」>「PCI 64-bit Resources Allocation」メニュー)。この回避方法には制限があります。オプションカードの組み合わせによっては、システムに、システムが 32 ビットのアドレス空間内に割り当て可能な領域よりも多くの MMIO 領域が必要になります。その場合、MMIO アドレス空間の不足のために割り当てることができなかったオプションカードは、使用不可になります。

詳細については、この問題についての VMware のナレッジベース記事を参照してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2050443

VMware ESXi 5.5 で PCIe カードの割り込みが不足する (16494653)

ある特定の構成では、VMware ESXi でデバイス (これにはストレージやネットワークが含まれる場合があります) の割り込みが不足することがあります。

詳細については、VMware の『構成の上限』の、ESXi 5.5 のホストの上限についてのドキュメントを参照してください。

<http://www.vmware.com/pdf/vsphere5/r55/vsphere-55-configuration-maximums.pdf>

ESXi 5.5 は最大 4T バイトの RAM をサポートします

4T バイトを越える RAM での ESIX vSphere 5.5 の実行はサポートされていません。

サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手

このセクションでは、サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新にアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
サーバーファームウェアとソフトウェアの更新について学習します。	35 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」
ファームウェアおよびソフトウェアへのアクセスオプションについて学びます。	36 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
使用可能なファームウェアおよびソフトウェアのリリースを確認します。	37 ページの「ソフトウェアリリース」
Oracle System Assistant, My Oracle Support、または物理メディアのリクエストを使ってファームウェアおよびソフトウェアを取得する方法について学びます。	38 ページの「MOS または PMR からのファームウェアおよびソフトウェアの取得」
その他の方法を使ってファームウェアおよびソフトウェアのアップデートをインストールします。	42 ページの「その他の方法による更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアの更新

サーバーファームウェアおよびソフトウェアは定期的に更新されます。これらのアップデートはソフトウェアリリースとして使用可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバーで利用できるすべてのファームウェア、ソフトウェア、ハードウェアドライバ、ツール、およびユーティリティを含む、ダウンロード可能なファイル (パッチ) のセットです。これらのファイルはすべて一緒にテストされ、使用するサーバーで動作することが確認されています。

サーバーファームウェアおよびソフトウェアは、新しいソフトウェアリリースが入手可能になりしだい、更新してください。ソフトウェアリリースには、多くの場合はバグの修正が含まれており、サーバーを更新することで、サーバーファームウェアおよびソフトウェアが最新であることが保証されます。

ソフトウェアリリースの各パッチに付属する ReadMe ドキュメントには、そのパッチに関する情報 (前回のソフトウェアリリースから変更された点や変更されていない点、今回のリリースで修正されたバグなど) が含まれています。

サーバードキュメントの一部であるプロダクトノートでは、サーバーでサポートされる最新リリースのサーバーソフトウェアリリースが特定されます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

サーバーのファームウェアおよびソフトウェアの最新リリースを取得するには、次のいずれかのオプションを使用します。

- **Oracle System Assistant** - Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされている、Oracle サーバー用のオプションであり、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードおよびインストールできるようにします。

Oracle System Assistant の使用については、『[Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド](http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

My Oracle Support - すべてのシステムソフトウェアリリースは、<http://support.oracle.com> の My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support Web サイトで入手できるものについては、[38 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」](#)を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法については、[39 ページの「物理メディアをリクエストする」](#)を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** - My Oracle Support から入手可能な 1 つ以上のソフトウェアリリースを含んだ DVD をリクエストできます。

詳細は、[39 ページの「物理メディアをリクエストする」](#)を参照してください。

- **その他の方法** - Oracle Enterprise Manager Ops Center、Oracle Hardware Management Pack、または Oracle ILOM を使ってサーバーのソフトウェアおよびファームウェアを更新できます。

詳細は、[42 ページの「その他の方法による更新のインストール」](#)を参照してください。

ソフトウェアリリース

My Oracle Support 上のソフトウェアリリースは、製品ファミリ (Sun Server など)、続いて製品 (特定のサーバーやブレード)、そして最後にソフトウェアリリースのバージョンによってグループ化されています。ソフトウェアリリースには、サーバーまたはブレードの更新されたソフトウェアとファームウェアがすべて、ダウンロード可能な一連のファイル (パッチ) として含まれており、それに含まれるファームウェア、ドライバ、ツール、ユーティリティはすべて一緒にテストされ、サーバーとの互換性があります。

各パッチは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

My Oracle Support では、次の表で説明するようなサーバー用の一連のソフトウェアリリースが提供されています。これらのソフトウェアリリースを取得するには、My Oracle Support からファイルをダウンロードするか、あるいは物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に対して発行します。あるいは、Oracle System Assistant を使って同じファームウェアおよびソフトウェアをサーバーにダウンロードすることもできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X4-x SW <i>release</i> – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、オプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェアが含まれます。	最新のファームウェアが必要なとき。
X4-x SW <i>release</i> – OS Pack	特定の OS のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティから成るパッケージを含んでいます。OS Pack は、サポートされるオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。 Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。	OS 固有のツール、ドライバ、またはユーティリティを更新する必要があるとき。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X4-x SW <i>release</i> – All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックには、Oracle VTS や Oracle System Assistant イメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合わせを更新する必要があるとき。
X4-x SW <i>release</i> – Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージが含まれます。	Oracle VTS 診断イメージが必要などとき。
X4-x SW <i>release</i> – Oracle System Assistant Updater	Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージを含みます。	Oracle System Assistant を手動で復旧または更新する必要があるとき。

MOS または PMR からのファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用できます。詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)を参照してください。

ただし、更新されたファームウェアやソフトウェアを取得するには、My Oracle Support (MOS) を使用するか、または物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に送信することもできます。詳細については、次を参照してください。

- [38 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」](#)
- [39 ページの「物理メディアをリクエストする」](#)

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード

1. My Oracle Support の Web サイト (<http://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
画面右に「パッチ検索」ペインが表示されます。
4. 「検索」タブ領域内で、「製品またはファミリ (拡張)」をクリックします。

検索フィールドを含む「検索」タブ領域が表示されます。

5. 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。

あるいは、製品名 (たとえば、Sun Server X4-2) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。

6. 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。

使用可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、リストを展開します。

7. 「検索」をクリックします。

「パッチの詳細検索結果」画面が表示され、ソフトウェアリリースのパッチが一覧表示されます。

入手可能なソフトウェアリリースの説明については、[37 ページの「ソフトウェアリリース」](#)を参照してください。

8. ソフトウェアリリースのパッチを選択するには、ソフトウェアリリースのバージョンの横のパッチ番号をクリックします。

Shift キーを使用すると複数のパッチを選択できます。

アクションパネルがポップアップ表示されます。パネルには、「README」、「ダウンロード」、「計画に追加」オプションを含め、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連するボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。

9. このパッチの ReadMe ファイルを確認するには、「README」をクリックします。
10. ソフトウェアリリースのパッチをダウンロードするには、「ダウンロード」をクリックします。
11. 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの zip ファイル名をクリックします。
ソフトウェアリリースのパッチがダウンロードされます。

物理メディアをリクエストする

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に対して発行することで最新のソフトウェアリリースパッケージを入手できます。PMR を発行するための推奨の方法は、My Oracle Support (MOS) の Web サイトを使用することです。

これらのセクションでは、物理メディアのリクエストを発行する際の大まかなタスクについて説明します。

- 40 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」
- 40 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」
- 42 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエストのための情報の収集

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次を行なってください。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新版のソフトウェアリリースバージョンおよびリクエストするソフトウェアリリースのパッチの名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
 - *My Oracle Support* にアクセスできる場合 – 38 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースバージョンを確認し、入手可能なソフトウェアリリースパッケージ (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチの詳細検索結果」画面からほかのページに移動できます。
 - *My Oracle Support* にアクセスできない場合 – 37 ページの「[ソフトウェアリリース](#)」の情報を使用して必要なソフトウェアリリースのパッチを特定し、最新のソフトウェアリリースバージョンのそれらのパッチをリクエストします。
- 送付先情報を用意します。リクエストの際に、連絡先の名前、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、[40 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」](#)に記載されている情報を収集します。

1. My Oracle Support の Web サイト (<http://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの右上隅にある「問合せ」リンクをクリックします。
「サービス・リクエストの作成」の「問題」画面が表示されます。

4. リクエストを次のように記述します。
 - a. 「問題のサマリー」フィールドに **PMR for latest software release** と入力します。
 - b. 「問題タイプ」ドロップダウンリストからソフトウェアと OS メディア・リクエストに関する項目を選択します。
 - c. 「サポート ID」フィールドに、サポート契約に関連付けられたカスタマサポート ID を入力します。
5. 「サービス・リクエストの作成」の「ソリューション」画面をスキップするため、画面右上隅の「次へ」ボタンを 2 回クリックします。
「サービス・リクエストの作成」の「詳細」画面が表示されます。
6. 次のように、リクエストに関する追加情報を指定します。
 - a. 「追加情報」セクションで、次の表に一覧表示した質問に答えます。

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか？	はい
どの製品ラインに関するメディアのリクエストですか？	Sun 製品
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	いいえ
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい
パッチを CD や DVD でご希望の場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
物理メディア送付をリクエストしている製品の名称とバージョンをリストしてください。	製品名: Sun Server X4-x バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
リクエストするメディアの OS またはプラットフォームは何ですか？	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
この送付に言語は必要ですか？	いいえ

- b. 送付先/連絡先情報 (連絡先の名前、電話番号、電子メールアドレス、会社名、送付先住所など) を入力します。
7. 「次へ」ボタンをクリックします。
「サービス・リクエストの作成」の「重大度/連絡先」画面が表示されます。
8. 連絡先電話番号と好みの連絡手段を入力します。
9. 「発行」ボタンをクリックします。
これで、物理メディアのリクエストが完了します。物理メディアを受け取るまで、最大 7 営業日かかる可能性があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、[40 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」](#)に記載されている情報を収集します。

1. 次の Oracle Global Customer Support Contacts Directory にある該当する番号を使用して、Oracle サポートに電話をかけます。
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
2. Sun Server X4-x の物理メディアのリクエスト (PMR) を行う旨を Oracle サポートに伝えます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースパッケージおよびパッチ番号の情報が得られる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアリリースパッケージの情報がみつからない場合は、Sun Server X4-x の最新のソフトウェアリリースパッケージをリクエストします。

その他の方法による更新のインストール

Oracle System Assistant や My Oracle Support を使用方法のほかに、次のいずれかの方法を使って更新されたファームウェアやソフトウェアをインストールすることもできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller を使って Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合

合も、Ops Center で 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細については、次にアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html>

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。

詳細については、次にある Oracle Hardware Management Pack のドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs>

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM の Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使って Oracle ILOM および BIOS のファームウェアを更新できます。

詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>) を参照してください。

